



校長室から

校長 河須崎 恒

新年あけましておめでとうございます。今年も宜しくお願いいたします。

今年の干支は「申」（さる）です。「申」は十二支の 9 番目で音で「シン」、訓で「のびる」「もうす」の読みがあります。字源は「雷」。稲妻の象形文字であるところから、神の技という意味があるそうです。難しいことはさておき、親しみやすい「猿」のように素早く「災厄」が「去る」1 年であって欲しいものです。

さて、2016 年は高校生と学校にとって大きな変革があります。新聞や TV で報道されているように、早ければ今年の夏の参議院選挙で 18 歳以上の選挙権が適用される見込みです。昨年 6 月の公職選挙法改正により選挙権年齢が 18 歳に引き下げられました。少子高齢化の進む我が国で、未来を担う若者に、未来の日本の在り方を決める政治に関わって欲しいとの改正です。現高校 3 年生と 2 年生の一部生徒が該当します。鹿島高校でも鹿嶋市選挙管理委員会と連携を取り、出前授業や講演会という形で「主権者教育」を本格化させて行く予定です。

文部科学省が作成した高校生向け副教材「私達が拓く日本の未来」では、「社会参加に必要な知識や技能、価値観修得のための教育」を主権者教育と定義していますが、これは全有権者の 2%にあたる 18 歳と 19 歳の若者にだけ当てはまるもののでしょうか。私には、残りの 98%の大人達に問いかけてられていると思われてなりません。「未来を担う」若者のためにも、「今を決める」わたしたち大人の政治的素養が求められているのでしょう。

雑学です。申年とは、西暦を 12（十二支）で割っても余りが出ない年だそうです。無駄の無い 1 年にしたいですね。

～ 1 月以降の主な行事予定～

- 1 月 16 日：大学入試センター試験（～17 日）
 - ・66 名が受験する予定です
- 24 日：英語検定
- 26 日：三年生学年末考査（～29 日）
- 30 日：漢字検定
- 2 月 1 日：三年生自宅学習
- 15 日：学年末考査（～18 日）
- 29 日：卒業式予行演習
- 3 月 1 日：卒業式

進路状況中間報告 (12/15 判明分まで)

3 年生の進路状況中間報告です。

国公立大学は、現在のところ下記 5 大学 5 名です。推薦とは言え、いずれも、高い倍率と論文を主とする厳しい入試を乗り越えた合格です。

【国公立大学・短大～公募制推薦入試】

千葉大学文学部行動科学科	1
茨城大学農学部生物生産科学科	1
茨城大学工学部 A コース情報工学科	1
茨城県立医療大学保健医療学部 放射線技術学科	1
大月市立大月短期大学経済科	1

【私立大学・短大・専門学校】

	4 大	短大	専門	計
指定校推薦	25	11	21	57
公募制推薦	12	2	8	22
A O 入試等	14	6	16	36
一般入試	0	0	2	2
計	51	19	47	115

【就職～公務員・民間】

	男	女	合計
公務員	8	0	8
民間	44	17	61
計	52	17	69

* 公務員は重複合格を含みます。

公務員は、茨城県職員（1）、鹿嶋市職員（2）、及び、警察官・自衛官です。民間企業は、概ね好調とはいえ、まだ数名の未定者が挑戦中です。今月は大学入試センター試験。大学入試はこれからが本番です。

スクールカラー～耐震補強工事終了～

一番奥の三棟にきれいなラインが入りました。校舎にしては珍しい色だと思っていたら、スクールカラーを使ってみたとのことでした。こんな色がついているのはここだけです。耐震補強工事ですから、無粋な補強材が窓の外に交差している場所もあるのですが、この塗装はやさしい色合いです。三年にわたった耐震工事もほぼ終わり、校舎のあちこちがきれいになりました。



放課後⑫～冬の野球部～

三棟 1 階廊下、トレーニング施設。たくさんの運動部がここを利用している。中でもとりわけ威勢がいいのが野球部である。人数が多いせいだけではなく、仲間のトレーニングへの掛け声や、通りかかった大人への挨拶の声がひときわ大きいのである。いちいち挨拶を返していると、通過するのに時間がかかっていけない。かといって無視するわけにもいかない。少々悩ましい。トレーニングの話である。春の飛躍への準備。

鹿苑今昔⑬～あの頃は何人だったの？～

12 月に茨城県教育委員会から、本校の情報実務コースの募集停止が発表されました。これは、高校進学予定者の希望等を勘案した全県的な見直しによって決定したものです。情報実務コースの募集は停止しますが、鹿島高校としての募集定員には変更ありません。平成 31 年度入試からは、普通科 280 名（40 人×7 学級）の募集が行われます。

ところで鹿島高校、「あの頃」は一体何人いたのでしょうか。ちょっと気になったので調べてみました。『百年史』から生徒定員を拾ってみます。

明治 43	本科	150		* 創立時
昭和 8	本科	150	実科 150	
昭和 18	本科	450		
昭和 23	農業科	450		
昭和 24	農業科	300	普通科 150	定時制 400
昭和 40	農業科	165	普通科 660	
	園芸科	165	生活科 165	(計 1155)
平成 3	普通科	1157		
平成 10	普通科	960	内 情報実務コース 120	
平成 18	普通科	840	内 情報実務コース 120	
(現行)		40 人×7 学級×3 学年＝	840 人	
平成 33	普通科	840	* 改編完成年度	

ちなみに、最大数は、平成 2 年の 1217 人。この年は【普通科 1175 人＋園芸科 42 人】。全県的に臨時定員増が実施された頃で、新入生は 9 学級、400 人以上いたそうです。

鹿高なう～冬～

吹奏楽部：茨城県アンサンブルコンテスト
木管六重奏 銅賞（12/19）

運動部は新人戦の真っ只中です。結果は次号でお伝えいたします。

鹿島小学校六年生キャリア教育に参加

昨年 11 月 11 日、生徒会役員をはじめ 58 名の本校生徒が、鹿島小学校六年生の、いろいろな質問に答えてきました。「将来の夢」「今頑張っていること」「なぜ鹿島高校に入学したのか」などです。

小学生にとって、高校生は大



人です。真剣な眼差しときらきらした笑顔が印象的でした。真っ直ぐ見つめられると結構緊張したとのこと。参加した生徒にとっても貴重なキャリア教育でした。ありがとうございました。

編集後記：新しい年の訪れをゆっくり祝う間もなく、学校は、一番慌ただしい三ヶ月を迎えた。まずは三年生の大学受験。受験するのは生徒。でも家族も教師も忙しい。平行して、卒業式と高校入試。特に高校入試は、長期間にわたる細心の注意を要する仕事。四月の入学式まで気が抜けない。それにしても、誰もが、一年の締めくくりと、その先への準備の時。でも、慌ただしさに流されがちな時だからこそ、今日の前にあるものも大切にしたい。一日一日が、二度と訪れることのないかけがえのない時間。

茨城県立鹿島高等学校 学校だより

『鹿苑だより』第19号（隔月刊）

発行：茨城県立鹿島高等学校

校長 河須崎 恒

編集：広報委員会

中沢雅彦 山崎律子